



大震災にそなえて 座談会

また、資料集には復興支援に参加した兵庫県、宮城県山元町、愛知県の職員の方の、復興支援に対する思いを記した寄稿文も収録されています。

報告者および研究会に参加された埋蔵文化財担当者の皆様、ご苦労様でした。

---

土岐市美濃陶磁歴史館の方が遺物の借用のために訪れました。

6月30日、土岐市美濃陶磁歴史館の方が特別展「お茶と美濃焼」に出品する遺物の借用のために訪れました。

貸し出されたのは瀬戸市岩屋町等に所在する鶯(うぐいす)窯跡の出土遺物です。この窯跡は東海環状自動車道建設のために、平成10年度から11年度、13年度に発掘調査が行われました。この調査では室町時代の焼物である古瀬戸を焼いた窯跡とそれを作るための工房の跡が確認されています。ここから出土した天目茶碗、茶入、陶製の茶臼(ちゃうす)、風炉(ふろ)等の10点が展示されます。

特別展「お茶と美濃焼」は9月15日から11月26日まで、土岐市美濃陶磁歴史館にて開催中です。是非ともお出ください。



---

大府市歴史民俗資料館の方が遺物の借用のために訪れました。

6月29日、大府市歴史民俗資料館の方が企画展「戦国あいちヒストリア展」の出品するために遺物の借用に訪れました。

貸し出されたのは大府市栄町所在の大脇城遺跡から出土した遺物です。この遺跡は国道23号線、および第二東海自動車道建設のために平成7年度から8年度にかけて調査されました。調査によって戦国時代から江戸時代初めまでの館跡が確認されました。館内の井戸から出土した陶器、土器や溝などから出土した箸(はし)、櫛(くし)、まな板の木製品が貸し出されました。

企画展「戦国あいちヒストリア展」は7月8日から9月3日まで、大府市歴史民俗資料館で開催中です。是非ともお出ください。



借用遺物の梱包

---

初夏のつどい(海南地域)に参加しました。

6月25日に愛知黎明(れいめい)高校で行われた「初夏のつどい(海南地域)」に参加してきました。講座は14時半から15時50分までの80分間で、「弥生土器に触れてみよう」と題し行いました。参加されたのは周辺にお住いの一般の市民の方々です。

まず、朝日遺跡の概要について、職員からの説明があり、それから朝日遺跡から出土した土器に触れてもらいました。触れる際の留意点の説明を受けた後に、10名の参加した方々が最初は恐々、土器に触れていましたが、そのうちに慣れてくると土器に触れたり、持ち上げたりして土器の重量や感触を直に体感していました。

次に**拓本**です。土器の文様を墨で写し取っていきます。職員の説明の後に行いましたが、墨が濃すぎて文様が真っ黒になったり逆に薄くなりすぎたりして、皆さん、四苦八苦していました。それでも最後には「世界に一つしかない葉(しおり)」をきれいに作り上げて皆さん、満足されていたようです。

当センターでは講座、講演などの依頼を受け付けています。ご希望する団体、組織の代表の方は下記に連絡ください。なお受付日時は平日の午前9時から午後5時までです。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 TEL 0567-67-4164

担当 佐藤

メールアドレス [maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp](mailto:maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp)



土器に触れる



拓本に挑戦

---

岐阜市歴史博物館の方が特別展の展示のために遺物借用に訪れました。

---

6月20日、岐阜市歴史博物館の方が特別展への出品のために遺物借用に訪れました。

織田信長が岐阜に入城して450年にあたることを記念して開催される特別展、「Gifu信長展」に展示するために、石座(いわくら)神社遺跡から出土した火縄銃の鉄砲玉5点が借用されました。この遺跡は新城市大宮に所在し、平成20年度から22年度にかけて第2東名自動車道建設のために調査されました。その際に出土したのがこの鉄砲玉です。この遺跡は、織田・徳川連合軍と武田軍が激突した長篠戦い(1575年)が行われた設楽原(したらがはら)に近接しており、この鉄砲玉もこの戦いに使用されたものと考えられます。

この特別展は7月14日から8月20日まで岐阜市歴史博物館で開催中です。是非ともご覧になってください。



「Gifu信長展」パンフレット

新任の先生方が研修に来られました。

調査研究課の岡田です。

6月20日、本年度採用された高等学校地理歴史科の先生8名と指導に当たる校長先生1名・教頭先生2名が、初任者研修の一環として当センターに来られました。

まず、所長より施設の説明・案内がありました。地理歴史科の先生たちということもあり、強い関心を持って見学されていました。また、当センター職員が遺物を使った授業の実践例を紹介すると、驚くように聞いていらっしゃいました。

当センターでは「出前授業」として、当センターが保管する土器や石器などを持って学校に出かけ授業を行っています。初任者の先生方にはこの日に受けた「感動」をぜひ授業に活かしていただけることを願うとともに、出前授業を積極的に利用していただけると嬉しく思います。





上左: 所長より施設の概要を説明      上右: 展示室を見て出土品に関心を示す先生方

下左: 当センター職員より遺物を使った授業実践

下右: 実際に土器を手にとってみる先生方一目の輝きが違います！

---

### 旭丘高等学校の定時制課程で出前授業を行いました。

---

6月29日、愛知県立旭丘高等学校の定時制課程の4年生に出前授業を行いました。今回のテーマは「遺跡から出土した食器を通して歴史をみる。」です。

まず旧石器時代から昭和までの各時代の煮炊きの道具と食器について概要を解説しました。縄文時代には土器が出現し食生活が大きく変わったことを解説し、さらに稲作が始まり弥生土器が使われるようになると、台の付いた煮炊き用の土器が見られるようになることを説明していきました。古墳時代には窯で器を焼く技術が朝鮮半島から伝わり、同時に現在のような個人用の食器が現れました。時代が進み室町時代になると、中国から伝わった茶道が盛んになり、同時に中国の茶の道具を真似した器が窯でたくさん作られるようになります。また江戸時代の初めの頃には、磁器を焼く技術が大陸を伝わり、これが現在使用されている器につながっていくことを説明していきました。

次に、解説した時代を感じてもらうために実際に出土遺物に触れてもらいました。始めは恐る恐る遺物に触れていた生徒たちですが、後には触れながらそれぞれの遺物の特徴を生徒同士で語り合っていました。



授業風景



土器に触れる

当センターでは、遺跡から出土した遺物を使った出前授業を行っています。出前授業を希望される先生方は以下の連絡先に連絡ください。なお電話による連絡は、平日の午前9時から午後5時までとなります。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 TEL 0567-67-4164

担当 佐藤

メールアドレス [maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp](mailto:maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp)

---

### ASCウォーキングクラブの方々が施設見学に訪れました。

---

6月15日、ASC(愛知シルバーカレッジ)のウォーキングクラブの方々が愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。

まず職員から2階の展示の解説をうけました。資料管理閲覧室にある人骨の剥ぎ取り展示などの朝日遺跡の出土遺物を見て驚いたり、ホールに展示されている赤彩土器の壺の美しさに見入っていました。

次に研修室で、朝日遺跡の概要の解説を受けた後に、朝日遺跡等から出土した土器を手にとってもらい、その質感、重量を感じてもらいました。通常は手に取るできない土器に触れたり、間近にみたりして、細かい文様を発見したり重さや軽さを感じて感激されているようでした。円窓付土器に対しては、「どうして円い窓がついているのか？」を参加者同士で語り合っていました。

当センターでは、グループでの見学を受け付けています。希望されるグループの代表の方は事前に下記の連絡先に連絡を入れてください。

### 連絡先

愛知県埋蔵文化財調査センター 連絡先 電話0567-67-4164

(受付時間は午前9時から午後5時まで)

担当者 佐藤・鶴飼

朝日(あさひ)遺跡:東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市西区に所在。

赤彩土器(せきさいどき):土器の表面をベンガラを使い赤く塗った土器で尾張地方西部に特徴的にみられる。

円窓付土器(まるまどつきどき):土器を焼く前から壺の胴部に円形の穴をあけた土器で、尾張地方西部、とくに朝日遺跡周辺で特徴的にみられる。



土器に触れる その1



土器に触れる その2

---

## 北野田C遺跡の発掘 その2

---

調査研究課の岡田です。

現在までの北野田C遺跡の発掘調査の進捗状況をお伝えします。

表土掘削を6月初旬に終え、現在は中世の山茶碗を含む層を掘削しています。これまでに、炭焼窯の跡、柱穴、地中に埋められた桶などが見つかりました。

山間地らしく、時には「やまどり」が近づいて来たり(逃げない!)、「狸」が遠くからこちらを覗いていることもあります。こうした姿をみると作業の疲れも自然と消えてゆきます。



上左: 山茶碗が見つかりました 上右: 発掘作業の様子

下左: 炭焼窯の跡。しゃもじの形をしています。横に延びる溝は遺構の断面を確認するために掘ったトレンチです。

下右: 杉材で作られた桶です。地中に埋められていました。

山茶碗: 平安末期から室町時代にかけて県内の丘陵地で焼成された釉薬を掛けない碗や皿。

トレンチ: 考古学では土壌の堆積の観察や排水目的で掘削される溝のことをいう。

---

弥富市立十四山中学校の生徒たちが職場体験に来ました。

---

調査研究課の鶉飼です。

先週の弥富市立弥富中学校に続き、十四山中学校の生徒2名が、当センターに職場体験のため訪れました。

初日(6日)は調査センター職員が考古学や発掘調査を行う理由、調査センターの役割について説明しました。その後施設を見学し、整理作業の手順や遺物の収蔵について説明しました。生徒たちは普段立ち入ることができない収蔵庫にあるたくさんの土器等を見て、驚いていました。午後は遺物の接合を行いました。愛知県埋蔵文化財センターの職員・作業員の方から手順を教えてもらったのち作業を始めましたが、作業に慣れてくると次々に接合ができるようになり、作業員の方も感心していました。あとで感想を聞いてみましたが、接合作業が一番印象に残ったようです。

2日目(7日)の午前は、遺物の実測・拓本の作業を行いました。実測は出土遺物の形や文様を記録し、作り方の特徴や遺構が作られた時代を知るための大事な作業です。調査センター職員から実測や拓本の手順について、説明を聞きながら作業しました。作業後に生徒は、「土器の厚みなどを測って実測するのは本当に難しかった。でも書き上げた時はすごくうれしかった」、「拓本で作ったしおりは家族へのプレゼントにしたい」と語っていました。



午後は愛知県埋蔵文化財センターの職員が遺跡の自然環境を復元するためには科学の知識が欠かせないことを説明した後、近くの水路で土を採取してきました。生徒は顕微鏡を使って採取した土の中からケイソウを探し、写真に収めていました。学校で体験できない作業に生徒は強い関心を寄せていました。後半は作業員の方の指示で木製品の収納を行いました。

最終日(8日)は模擬授業を受講し、図書整理を行いました。模擬授業では「土器・ど・キット」を用いて土器の変遷を学び、遺跡から出土した赤彩(せきさい)土器・円窓付(まるまどつき)土器に触れて、その用途について考えました。図書整理では蔵書の確認、報告書の名称を一覧表に書き込む作業を行いました。午後は感想文を発表して職場体験を終えました。

3日間の作業を通じて、生徒の皆さんがまじめに取り組んでいたことが印象に残りました。生徒の感想文にも、「多くの労力と時間が使われていることを学んだ」、「この3日間で学んだことを普段の学校生活に生かしたい」と書かれていました。

6月20日(火曜日)からは弥富北中学校の生徒たちが職場体験を行なっています。

ケイソウ :海や川の中に生息する単細胞の植物プランクトンの仲間。種類を調べることで、昔の水辺の環境を復元することができます。

赤彩土器 :土器の表面に赤色の顔料などで彩色した、尾張地方特有の土器。



施設見学



土器の接合



拓本体験



木製品の整理

弥富市立十四山東部小学校で出前授業を実施しました。

6月16日、十四山東部小学校で6年生、22名1クラスを対象に出前授業を行いました。

出前授業に使った土器は縄文土器と弥生土器の甕(かめ)、須恵器(すえき)の壺(つぼ)です。まずこれらをグループごとに実際に手に取って観察を行い、色・厚さ・文様の有無などの特色をワークシートにまとめていきました。観察が終了したら、発表です。各グループの代表が土器一つ一つの特色を、発表しました。「この土器は軽い、重い。」「この土器が一番硬そうだ。」「文様がこの土器は横に、こちらは縦、渦巻きの文様もある。」「火を受けた痕跡がある。」など色々な意見がでて、生徒の観察力に感心しました。

次は土器の時代当てのクイズです。まとめた土器の特色を基にそれぞれが何時代の土器か、各グループで話し合ってもらいました。「この土器は何時代のものでしょうか?」という問いに、あらかじめ用意したプレートで答えをグループごとに提示してもらいました。解答のたびに、歓声と悲鳴が交錯していました。

最後にパソコンを使い、「新しい土器」である須恵器がどこから、もたらされたかを考えました。実際に愛知県内で出土した実物と朝鮮半島で出土した古代の土器の画像とを対比して似ている点が多いことから、須恵器の源流が朝鮮半島にあることを示しました。さらに大仙古墳(だいせんこふん)の模型の映像をみてもらい、実物は東部小学校の敷地の2倍以上あること、6年生の生徒22名だけで古墳を造ろうとすると800年以上もかかることを伝えると、みんなビックリしていました。



使用教室



授業風景



土器に触れる



グループで考える



答え合わせ

十四山東部小学校との触れ合いの時間はアツという間に過ぎてしまいました。生徒たちが直に土器に触れ時代を感じてくれるこの時間はやりがいを感じます。この授業を受けた生徒たちが少しでも歴史に興味をもってくれれば幸いです。

当センターは出土遺物を使った出前授業を実施しています。実施希望の方は下記に連絡ください。電話は平日の午前9時から午後5時30分まで。

愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 Tel:0567-67-4164

[maizoubunkazai@pref.aichi.lg.jp](mailto:maizoubunkazai@pref.aichi.lg.jp)

担当 佐藤公保